

中間報告

令和3年度
景気観測調査
報告書

令和4年3月

玉造商工会



【目 次】

I. 調査概要

II. 調査結果

1. 業況判断

2. 業況判断（前年度比較）

3. 業況判断の主な理由

4. 次期の業況見込み

5. 次期の業況見込み（前年度比較）

6. 次期の業況見込みの主な理由

7. 設備投資の動向

8. 設備投資の主な内容

III. 調査票

I. 調査概要

1. 調査目的 : 当地を代表する観光産業の景気動向を把握し、今後の地元観光産業の基礎資料として活用することを目的とする。
2. 調査対象者 : 玉造商工会会員事業所（法人・個人含む）で、観光産業に関連する事業所の経営者、または経営に携わる方。

※業種と対象者数

・ 木地漆器業	5 事業者
・ 小売業	12 事業者
・ 料理、飲食業	9 事業者
・ 旅館、ホテル業	9 事業者
合計	35 事業者

(※事業者の選定は任意)

3. 調査方法 : 上記対象者に対する留置式パネル調査
4. 調査期間 : 四半期毎
3月～5月 (第1期)
6月～8月 (第2期)
9月～11月 (第3期)
12月～2月 (第4期)

5. 調査項目 : ①当期の景況感についての判断及びその判断理由
②次期の景況感についての見込み及びその判断理由
③設備投資の有無及びその理由

6. 集計方針 : 調査項目の①、②は、「景気がよい」「やや景気がよい」と判断した回答の構成比合計から、「やや景気が悪い」「景気が悪い」と判断した回答の構成比合計を差し引いた数値で業況判断の指数 (Diffusion Index) としている。なお、「例年と変わらない」はカウントしない。
また、各事業所の業況判断の理由を踏まえ、指数と照合し相対的に各期の景気動向を解釈する。
調査項目の③は、業種ごとの設備投資の有無とその理由について、相対的に検討し業況判断を行う。

7. その他

- : ①集計結果については、回収数を母数とし地域全体の代表性を表すものではない。
- ②集計時の構成比は、小数点以下2位を四捨五入しているため合計が必ずしも100%にならない場合があるが、表記は100.0%としている。
- ③報告書作成においては、集計方針を受けて有用と判断されるものを採択し掲載することとする。
- ④本報告書は、年間4回の調査を集約したものである。
- ⑤調査結果1. 及び4. に掲載している年間ポイントは、本事業継続を前提とすることにおいて、以後の年度ごとにその業況感の向上・回復や下降・下落の変遷を比較することを狙いとしている。
- ⑥新型コロナウイルス感染及び新型コロナウイルス感染症拡大を「コロナ」と略して表記している。

II. 調査結果

1. 四半期ごとの業況判断

第1期（3月～5月）は、依然として新型コロナウイルス感染症拡大による影響から全業種で「景気が悪い」との業況となった。

第2期（6月～8月）では、木地漆器業、料理・飲食業の業況改善は見られなかったが、水面下ながら小売業、旅館・ホテル業は、僅かではあるが改善が見られた。

【図表1 四半期ごとの業況判断】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	不調	不調	不調	不調
第2期	不調	不調	不調	不調

※判断基準：好調 =50%以上

やや好調=1%～50%未満

やや不調=0～-50%未満

不調 =-50%以下

※年間ポイント：好調 =1ポイント

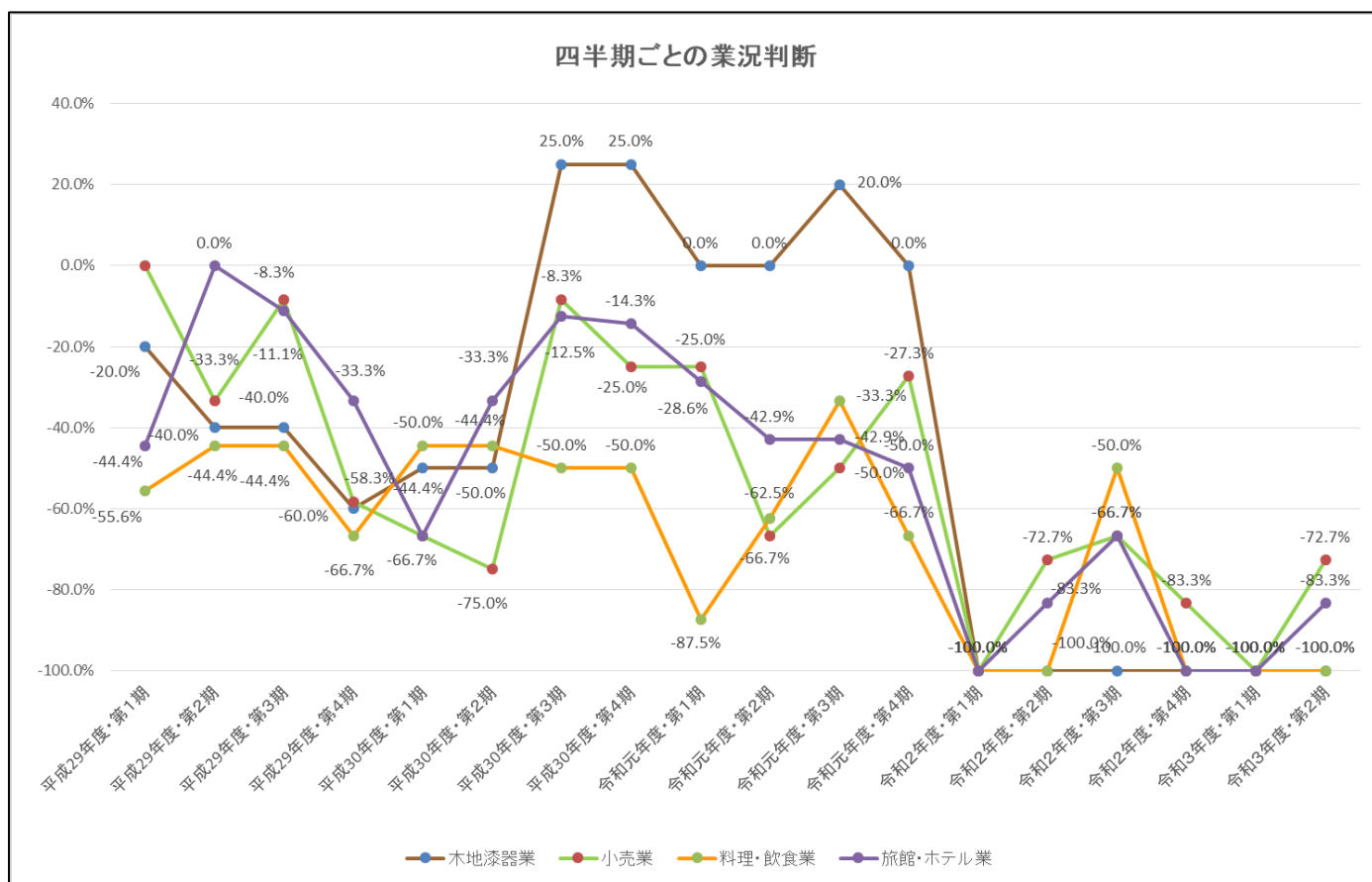
やや好調=0.5ポイント

やや不調=-0.5ポイント

不調 =-1ポイント

の加減

(最高点=4ポイント 最低点=-4ポイント)

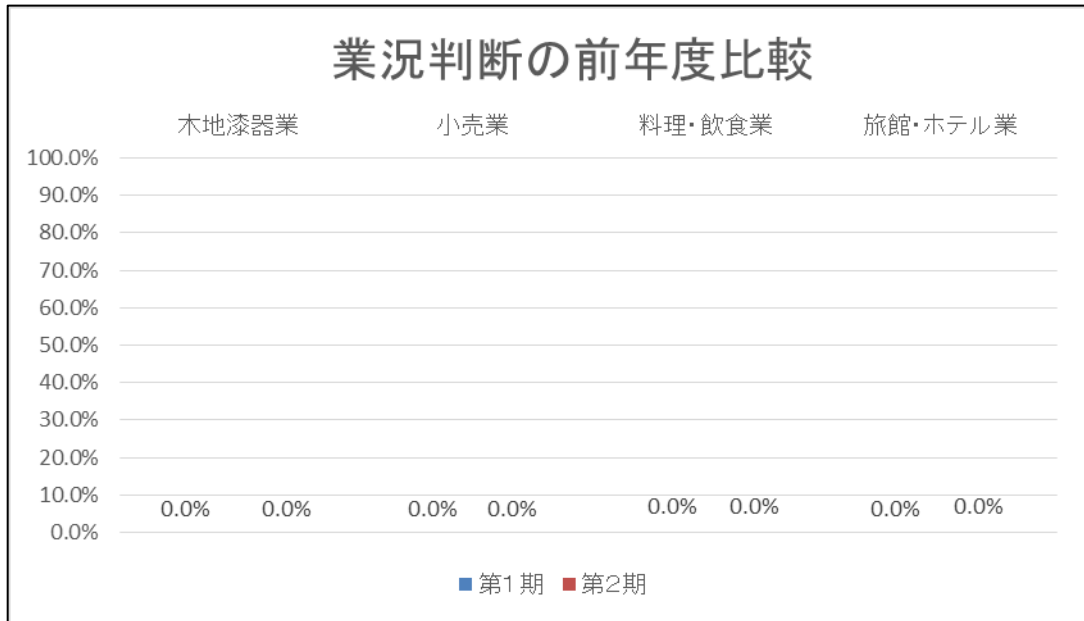


2. 業況判断（前年度比較）

前年度との比較において、第1期（3月～5月）、第2期（6月～8月）ともに前年度同様のDI値となり、変化は見られない。

【図表2 業況判断の前年度比較】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
第2期	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



3. 業況判断の主な理由

①第1期（3月～5月）

- ・コロナが収束しないのでホテル、旅館も休んでいるため、観光客は全然いません。
- ・コロナによる来客数の減少
- ・コロナの影響で客数が少ない。卸先からの注文が少ない。
- ・コロナの影響のため、人流（観光客）が大きくマイナスになっている。
- ・コロナ禍の中、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置等で、旅館、ホテルが平日は休業し、観光客が激減し、土産品の売上が非常に悪い。
- ・観光客は減少しているが、巣ごもり需要が高まっている。
- ・地域内のお客様が中心なので、あまり変化はない。
- ・コロナの影響が長引いている。
- ・道の駅の人出は、例年とさほど変わらないため。
- ・コロナ禍で遠出がしにくくなっており、近隣の方が多く訪れるようになった。
- ・とにかく、コロナでお客さんが減少。
- ・コロナにより予約が低調。
- ・宿泊の予約が少なく、直前のキャンセルが多く見られた。
- ・売上が35%程減少。食堂は40%程、物販は30%強減少している。

- ・地元来客数の減少
- ・コロナにより、移動自粛が続いており売上は半減。
- ・国の観光施策への不参加から来る客離れから一時、苦境に陥るものの、当館独自の宿泊プラン造成の結果、順調に推移し始め、やや好調に転じる。
- ・宿泊（旅籠、自炊共に）、お休み（日帰り）、入浴、物品販売全てにおいて落ち込んでいる。ただし、入浴は鳴子全体としては好調の様子。
- ・ワクチン接種が始まったので、少しずつはお客様が足を運んでくれるようにはなりましたが、旅館・ホテルに宿泊するお客様が少ないので、前年度の売上には程遠いです。ワクチン接種を2回打ったお年寄りが少団体で休みに来ているのは良い傾向です。
- ・コロナの影響で、観光客数が減り、必然的に来客数、売上も大幅に減少傾向にある。
- ・まず、人通りが少ない。土曜、日曜は日帰り入浴のお客様でお店には入らない。

②第2期（6月～8月）

- ・コロナの為、お客さんがいない状態です。
- ・コロナ感染拡大防止による行動自粛により観光客が激減
- ・コロナの影響で、来店数の減少と卸の減少
- ・コロナ禍での交流人口の減
- ・来店者数がやはりコロナの影響で少ない
- ・蔓延防止等重点措置及び緊急事態宣言等で、観光客が皆無状態。土産品の売上が対前々年で20%くらい。
- ・コロナの影響はあるが巣ごもり需要増。
- ・人出が少なく、酒の売れ行きが悪い。
- ・コロナの影響は限定的。
- ・コロナの悪影響は、それほど大きくないため。
- ・観光客の低下
- ・コロナにより予約が低調
- ・前年のようなGO-TOキャンペーンがないこと、感染拡大が続いていることなどから客足が遠のいている。
- ・売上が18%程減少。食堂は15%程、物販は20%弱減少している。
- ・コロナ禍の収束ない限り見込み無し。
- ・コロナ感染者数の増加による出控え感が強い。
- ・当館独自の宿泊プランが好調な予約を確保できたため。
- ・需要が非常に低い。この状況下ではしかたが無いし、対策を練るにも限界がある。本当に経済が「逼迫」しているとやっとな最近実感してきました。
- ・イベントのお客様、宿泊のお客様がいないため、去年より悪い状態が続いています。
- ・コロナによる自粛生活の影響
- ・ホテルが休みの日が多く、観光客も歩かず収入がかなり落ち込みました。

- ・平均すると、入込数が減少している。
- ・高価格帯の宿泊客の減少

4. 次期の業況見込み

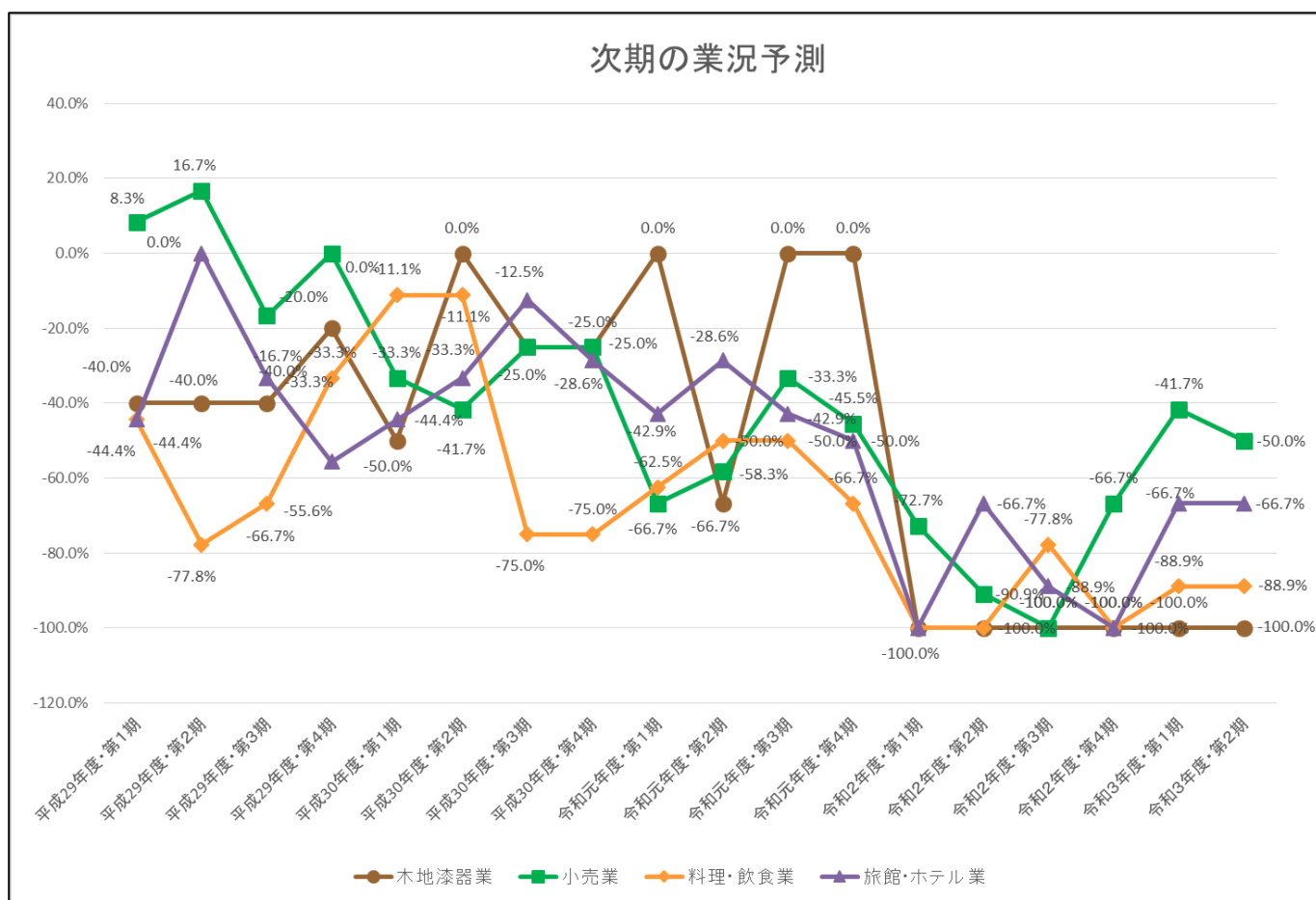
次期の業況予測としては、全業種、各期において水面下の見込みとなっている。

第1期（3月～5月）は、木地漆器業を除いて僅かながら改善すると予測されている。

第2期（6月～8月）では、次期が紅葉や行楽による繁忙期であるにもかかわらず、木地漆器業、料理・飲食業、旅館・ホテル業は横ばいとなっており、小売業は悪化する見込みとなっている。

【図表3 次期の業況予測】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期→第2期	不調	やや不調	不調	不調
第2期→第3期	不調	不調	不調	不調



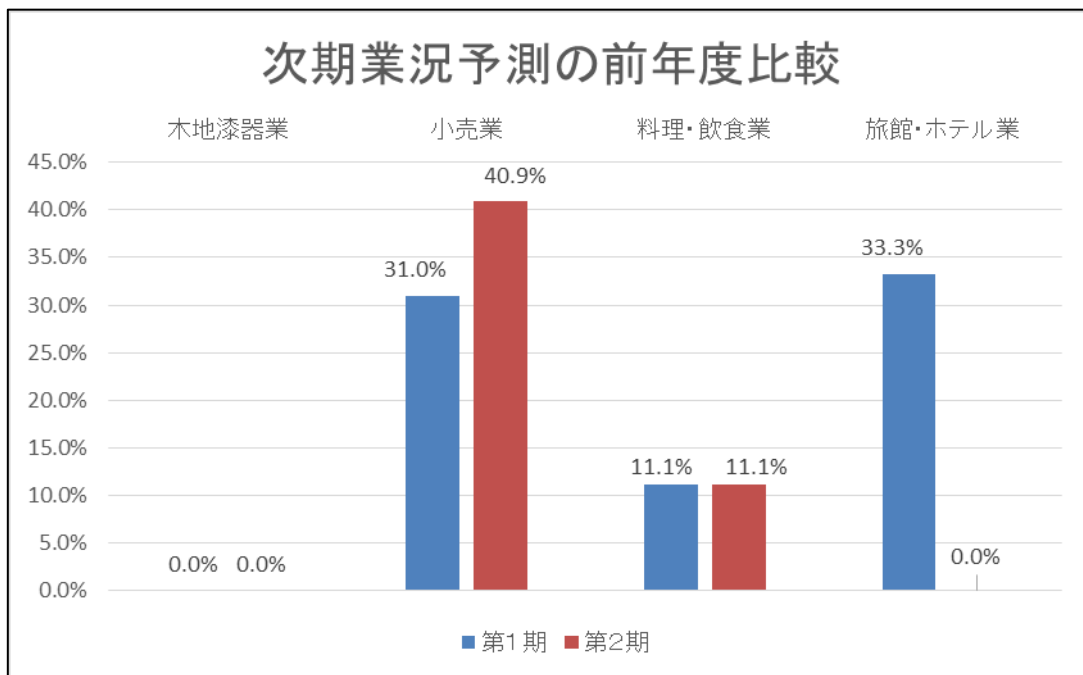
5. 次期の業況見込み（前年度比較）

前年度との比較において、第1期（3月～5月）は、木地漆器業を除いて改善が見られる。

第2期（6月～8月）では、木地漆器業、旅館・ホテル業に変化はないものの、小売業においては大幅な改善が見られる。

【図表4 次期業況予測の前年度比較】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	0.0%	31.0%	11.1%	33.3%
第2期	0.0%	40.9%	11.1%	0.0%



6. 次期の業況見込みの主な理由

①第1期（3月～5月）

- ・今のところ、理由はコロナの為。
- ・観光客が増加しなければどうにもならない。
- ・コロナの感染者数が増えている状況で、客数・注文の伸びに期待できない。
- ・コロナのワクチン接種が進んでも、秋までは客足が回復しない。
- ・観光客は減少しているが、巣ごもり需要が高まっている。
- ・コロナの動向次第で変化すると思われる。
- ・地域内のお客様が中心なので、あまり変化はない。
- ・資金繰りなどの面で、見通しがつきにくい状況が続いているため。
- ・コロナによる来客減。
- ・コロナの影響はあるものの、そこまで大きな変化はないため。

- ・コロナ禍で遠出がしにくくなっており、近隣の方が多く訪れるようになった状況が当面続くと思われるため。
- ・いろいろな対策を国、県などで考えてはいるが、それが商店、旅館のためになっているかどうかは疑問である。
- ・予約が入るもののキャンセルも多く、感染拡大の様子見の状況と思われる。団体の予約も入るものの団体内部での反対意見もあるようで仮予約に止まっている。
- ・入浴者数も例年の半分であり、7月には大規模な修繕を予定しているため。
- ・ワクチン接種後に期待しています。各イベントの縮小でも開催されるのに期待します。
- ・コロナの落ち着き次第と思うが、想像がつかない。
- ・独自のプランが根付いた様子が随所に見られ、顧客から新規への拡大を計りたい。
- ・プレミアム商品券が少しずつ動いているから。県民割引もやっと手続きしたので、きっと効果が上がってくるはず。
- ・県の宿泊券などの売上は好調のようですが、使えるのは10月からなので、もう少しこの状態が続くと思います。ワクチン接種の進み具合によるのではないか。
- ・コロナが収束しない限り、現状のまま推移していくでしょう。
- ・早くコロナが収束し、お泊りのお客様がぶらぶらお散歩できるようになってほしい。

②第2期（6月～8月）

- ・観光客が全然、鳴子の町の中を歩いていない。ホテルも休んでいる。
- ・コロナが収束しないとどうにもならない。
- ・コロナの影響で、回復の見通しが立たないため
- ・店売り、卸売り両方とも50%近くの減少。
- ・ワクチン接種でコロナが落ち着いて、少し戻ってくることを見通して。
- ・鳴子温泉にとっては、1年中で一番忙しい時期ではあるが、イベント等の中止・縮小で紅葉期も例年の半分ぐらいの人出ではないか？
- ・コロナの影響はあるが巣ごもり需要増。
- ・コロナ感染状況による。
- ・客数が戻る見込みがない。
- ・秋は紅葉で、少しでもにぎわうと思うので期待している。
- ・10月からみやぎ割が始まる予定であることや紅葉シーズンを迎え、客足も伸びるものと思われる。ワクチン接種も広まり、心理的にも出掛けるムードになる。
- ・入浴者数の増加を見込む。
- ・行楽シーズンになり期待したいが、蔓延防止等重点措置及び緊急事態宣言等もあり、景気が上がるまではいかないと思う。
- ・当館独自の宿泊プランが好調な予約を確保できているため。
- ・去年は、GO-TO トラベルによって景気は上昇したが、今のところ再開の見通しが立っていないので。

- ・HPを立ち上げ、この状況下においてなだらかに「PR」していき、多少の手応えは感じている。また、前売宿泊券（県民割）は非常に好評だった。10月から使用可能なので少し期待したい。
- ・コロナの人数が少なくなった為、ワクチン接種が進んだ為お客様が多くなっているように思われます。10月からの宿泊券、期待したいものです。
- ・コロナが収束しない限り、希望がもてません。
- ・プレミアム宿泊券などの割増、お得感がないと宿泊しない流れを作ってしまったのではないかと思う。

7. 設備投資の動向

設備投資の動向については、小売業、料理・飲食業でコロナ感染症対策としての設備投資の積極さが窺われるが、木地漆器業、旅館・ホテル業では消極的となっている。

【図表5 各期の設備投資の状況】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	0/5件 (0.0%)	5/12件 (42%)	2/9件 (22%)	0/9件 (0.0%)
第2期	0/5件 (0.0%)	3/12件 (25%)	3/9件 (33%)	0/9件 (0.0%)

8. 設備投資の主な内容

①第1期（3月～5月）

- ・商品内容、店内レイアウトを大きく変えていく必要にある。
- ・新製品の生産のため。
- ・コロナ対策
- ・トイレ
- ・コロナ対策が未だ万全ではなく、その方向に環境整備する必要性が高いと思われるから。
- ・駐車場のアスファルトの直しと店内にカフェスペースをつくる予定でいます。休むところが無いという話を多く聞くので、少しずつですが商品を増やしていきたいと考えています。
- ・シャッター
- ・老朽化

②第2期（6月～8月）

- ・老朽化している設備はしなければならないと思っているが、現状では見通せない。
- ・新規事業用設備
- ・コロナ対策
- ・トイレ
- ・店の中の飲食のスペースをつくる為、補助金の申請を行っています。
- ・老朽化、ニーズの変化